



校訓

考える人 心豊かな人 たくましい人

霧島市立国分南中学校

学校便り 9月1号

令和7年9月30日発行

南中魂を体現した第58回体育大会

校長 平國弘明(ひらくに こうめい)

熱く燃えた体育大会から早2週間あまりが過ぎた。既にその余韻に浸っている生徒はおらず、生徒会選挙や学習文化発表会・校内合唱コンクール、中間テスト、ドリカムテスト、地区新人戦など先を見据えた生活を送っている様子である。また、朝晩の空気もようやく、秋めいたものになりつつある。

『「夏よりも熱い“南中魂”がここにある』～史上最高の舞台を！～』のスローガンを体現した生徒たち。開会式からエンジン全開。開会のあいさつ時の呼びかけにすら明瞭で力強い返事が返ることなく返ってくる。“すごい”と思わず口に出そうになり、同時に、生徒と職員が一緒にこの体育大会を創り上げていくという空気を感じた。圧倒されたのは、応援団長・副団長、総団長・総副団長による宣誓である。全員があらん限りの声で、大会への決意を述べ、各団や生徒全体を十分に鼓舞した。「本大会が絶対に素晴らしいものになる」という確信めいたものが湧き上がってくることを感じた。それに応えるかのように、ラジオ体操、開会式後の退場も自信に溢れ、実にしっかりとした姿となった。

9:00予定通り、男子1500mから競技が開始された。気温は30℃を越える中での選手にとっては非常に厳しい条件の下となったが、白熱かつハイレベルなレースが展開された。女子の800m、続く100m走でも好記録が出た。それ以上に、走力や着順に多少の差があっても全員が全力でグラウンドを駆け抜けた。休憩後、学年毎学級対抗の全員リレー。1年生はコーナートップやバトンパスまだまだ課題があるものの、走ることが得意な生徒はもちろん、そうでない生徒も手を抜くような生徒は見当たらなかった。それは上級生も同様であった。さすがに2、3年生となっていくと、技術も上がり、なお一層、迫力あるレースが展開された。続く、「チェスト！OHARA！」全校生徒による集団演技。南中らしい姿をもっと感じるプログラムだと個人的には思っている。これを体育大会に取り入れた当時の先生方や生徒はどんな気持ちでこのプログラムを作り上げたのであろうかと思いを馳せた。プログラム9番目は、「仲間とチャレンジ！」長縄跳びである。採点も工夫されていて、単に回数を競うだけでなく、「参加した学級の生徒数×回数」で点数が出される。この回数はなんと連続で跳んだ回数である。これが生徒たちの心理に大きく影響する。迷惑はかけられないという思いもプレッシャーとなったことだろう。実は跳ぶほうよりも縄を回すほうがきつく、跳び手の感覚を広めにとった方が飛びやすいとされるが、回す方の負荷は断然大きくなる。できるだけ大きな円を描くために全身を使って回さなければならない。回し手の2人がほぼ同じ力で強く引き合うことが必要で腕力、体幹の強さ、技術も要求される。「回し手が9割」とも言われるほどである。きつかったろう。もしかすると、「そろそろひかかってくれ。」と心の中では叫んでいたのかもしれない。

午後からは、部活動紹介・部活動対抗リレー、PTA種目「ラケットリレー」、応援合戦を実施。応援合戦は、どの団も甲乙付けがたい、南中生らしい勢いのある質の高い演舞を魅せた。演舞後は拍手喝采であった。そして、プログラム最後を飾ったのは、色別対抗リレー。各団、各学年から選抜された男女混合リレーである。白熱のデッドヒート。



